

前回のワークショップふいかえり 市民アンケート結果の共有

アンケート概要

- 恵庭市に在住する市民(15 歳以上)を対象とし、無作為抽出により 1000 人に実施
- 回答者数:414 人(男性 190 人 女性 214 人 無回答 10 人)

Q あなたは日頃どのぐらいの頻度で公園を利用していますか？

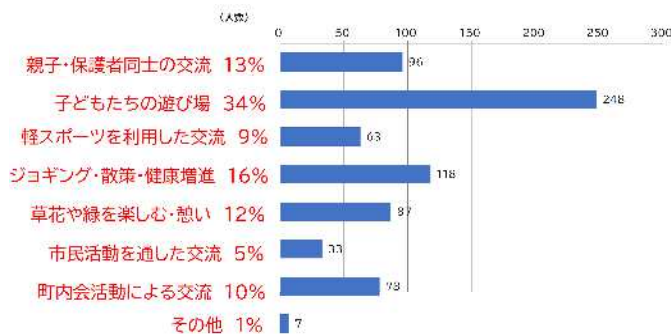
回答した約 3 割の人が、週に 1 回以上利用している
“**散策やジョギング**”での利用が最も多く、次いで
“**休憩やくつろぎ**”、“**花や緑を楽しむ**”、“**遊具・水遊び**”の回答が多かった。

利用しない理由としては、“**利用する目的がない**”の回答が約 8 割



Q 身近な公園は、普段から皆さんの交流の場・遊びの場などとして活用されていると思いますか？

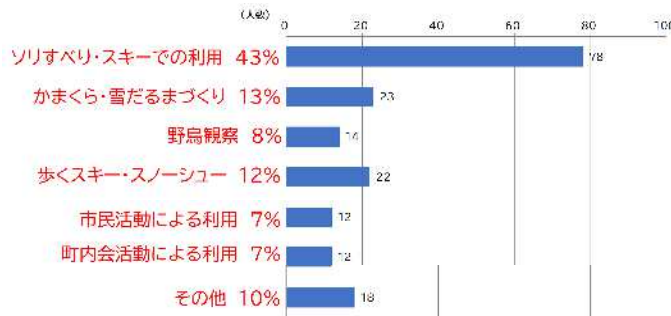
回答した約 7 割の人が、活用されている・どちらかといえば活用されていると回答。
“**子どもたちの遊び場**”の回答が約 3 割で最も多く、次いで“**ジョギング・健康増進**”、“**緑を楽しむ**”、“**人との交流**”の回答が多かった。



Q 身近な公園は、冬も利用されていると思いますか？

回答した約 3 割の人が、利用されている・どちらかといえば利用されていると回答。
“**ソリすべり・スキーでの利用**”の回答が約 4 割で最も多い。

利用されていない理由では、“**雪が多く積もり、遊びが制限される**”の回答が約 3 割を占める。



Q あなたは身近な公園に対して、総合的に満足していますか？

回答した約 6 割の人が、満足・どちらかといえば満足していると回答。“**子どもたちが遊べる遊具がある**”、“**みどりとふれあえる**”、“**草花など季節が楽しめる**”の回答が多い。

不満の理由では、“**施設の老朽化・樹木の手入れ不足**”の回答が約 3 割を占める。



Q この 3 年間で市内の公園でみどりづくりやイベント（遊び会、自然観察会、学習会、交流会など）に参加したことがありますか？

- ・花植えや植樹などへの参加 **約1割**
- ・学習会、観察会、交流会などへの参加 **約 2 割**
- ・芝刈りや落ち葉清掃など維持管理活動への参加 **約2割**

・上記活動に参加された人の**約 5 割～6 割**が、次回も参加したい意向

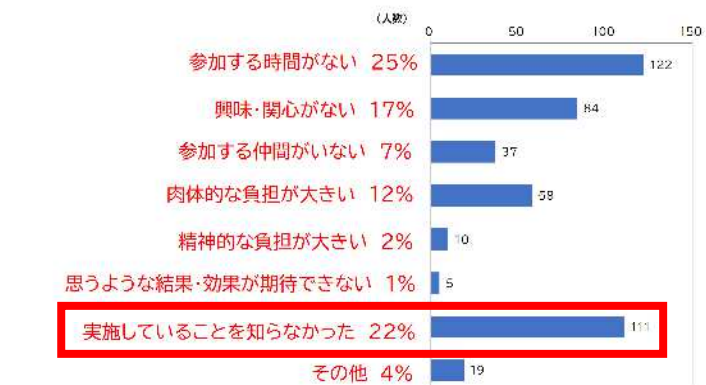
Q 参加したきっかけは何ですか？

・回答した約 5 割の人が“**町内会からのお知らせ**”となっている。



Q 参加しなかった理由は何ですか？

“**参加する時間がない**”と回答した人が最も多かったが、“**実施していることを知らなかった**”と回答した人も次いで多かった



市民アンケートでのまとめ

- ・現状の公園利用に関する設問では、散策やジョギングを行いながら、四季の移ろいや休憩などを目的とした利用が多い。
- ・一方で、公園は“子どもたちの遊び場”として認識されている人が多い。

- ・公園を利用したイベントや催しへの参加は、2 割程度に留まっているが、参加者のリピート率は 5 割強と高い。
- ・参加しなかった人では、催しの開催を知らなかったと回答した人も多く、今後は様々な媒体を使った周知が重要である。

※裏面に続きます

話し合いの内容

市民アンケートの結果や、市民協創による運営管理の先進事例を参考としながら、より掘り下げてパークセンターの運営管理の方法について、話し合いを行いました。

事例紹介とこれからの公園のあり方について NPO 法人 birth 佐藤さんより

- みどりの中間支援組織の役割は、“みどり”と“ひと”と“まち”を繋ぐ役割を持ち、公園のまちづくりに活かすこと。-Well-being なまちづくり-
- 公園は非常に大きな力がある。環境問題だけではなく、少子高齢化や貧困、健康、ワークライフバランスなどの社会課題を公園が解決する場として機能する。
- これまで公園は国交省が管轄しており、道路と同じような感覚で、安全に市民に使ってもらうということで公園があった。今は公園から考えるまちづくりの場、という考え方に変わってきている。まちづくりを考えるには、今までと違った新しい仕組みが必要で、新しい担い手も必要。ボランティアの活躍や最近ではパーク PFI という取組も広がっている。
- SDGsの観点では、公園緑地が活用されると環境面においては地域生態系を育むことができる。社会面ではコミュニティ活動が活性化する。経済面では地域経済が活性化する。それらの軸として協働・連携する役割を中間支援組織が行っている。
- 専門のパークコーディネータースタッフが、地域ニーズを拾う“アウトリーチ”を行い、テーマに共鳴した人や団体を繋ぐ“マッチング”をし、企画の実現に向けて“コーディネート”する。連携の要となる役割を果たすことで、あったらいいなを実現する。
- 公園をまちづくりに活かすためには、公園の特性だけではなく、地域の特性を把握する必要がある。地域の産官学民の方々と公園づくりの方向性について考える。これまでの維持管理中心の管理から運営管理のソフトも含めて考えることが非常に大事。

グループワークで挙げられた主な意見

☆ 中間支援組織の設置に関する課題について…

- 人材はいるが、高齢化が懸念される。まとめ役となる人がいない。
- 中間支援組織の位置付けは大切であり、当初から役割を整理しておく必要がある。
- 市に対しても中間支援組織の必要性を理解してもらう。
- 運営資金が必要。行政からの支援や公園自体においても集客の仕組みを考える必要がある。事例で紹介されていた、サンデーパークのような食に関する取り組みを参考にしたい。
- まずは経験のある団体にリードしてもらう必要があり、そこに得意分野を持つ人たちが集まってサポートするような体制が良い。
- 事例とは人口規模が異なるため、恵庭規模に落とし込んで考える必要がある。
⇒恵庭スタイルの模索

☆ 中間支援組織の設置に向けた体制・仕組みづくりについて…

- 中間支援組織はそこに入る“人”、コーディネーターが大切であり、公募で様々な専門家を集めたい。
- 関係団体同士、横の繋がりを持たせると中間支援組織の関与しないところでの活動が発生してしまうため、中間支援組織を介した体制が良いと考える。
- ルールは最初から決め過ぎず、ある程度余裕のあるものとし、使いながら決めていく方が良い。
- 恵み野中央公園だけが良くなればいいといった考えではなく、将来的には地域全体の活性化という視点で考えることが大事。
- 中間支援組織や関係団体は、市外の企業や団体よりも市内の企業や団体に関わっていただき、継続した雇用を生んでいきたい。
- 運営する団体は、地域の特性を考えたメンバー構成としたい。また、ソフト管理を得意とする団体のみならず、まちづくり協同組合などハード管理を得意とする団体も必要。
- 人材はいるため、横の繋がり活性化させるネットワーク化が必要。
- お金は出すが、口は出さないようなバックアップ体制が必要。
- 各施設の管理は個別で対応している状況のため、運営管理を一本化する。アメリカのネイバーフッド(住民自ら考えて、まちづくりを行っていく手法)のような仕組みづくりが理想。

☆ 中間支援組織の具体的な運営内容について…

- 中間支援組織の企画による活動により、公園の維持管理費の一部に充てられるようにしたい。
- “情報の統一化と多様化” パークセンターが情報を収集、発信する場としての活用していきたい。情報ネットワークで賑わいのある“使われる場”になる。ここに来れば、公園だけでなく、他の場所(例えば町内会)の情報も得られる場。
- 健康案内所のような、福祉や医療とも連携が図れる取組みや機能があると良い。

